



daitobo

『発想力を活かし無限大の可能性へ』
since 1896

第**198**期

第2四半期

株主通信

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日

ダイトウボウ株式会社

証券コード：3202



INTERIM
BUSINESS
REPORT

トップメッセージ



代表取締役社長 山内 一裕

株主の皆様には平素より格別のご高配とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第198期第2四半期（平成29年4月1日～平成29年9月30日）の株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

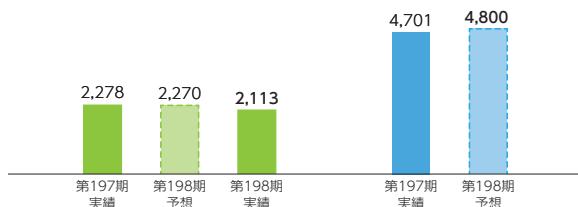
連結財務ハイライト

■売上高

2,113百万円

前年同期比 7.2%減
中間予想比 6.9%減

■第2四半期累計期間 ■通期 (単位: 百万円)



<はじめに>

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、総じて緩やかな回復基調で推移しました。国内の諸政策により所得・雇用情勢の改善が続く中で、引き続き海外経済の不確実性などに注意を要する状況が続きました。

こうした中で、当社グループは、引き続き「中期経営計画 Bridge to the Future ～未来への架け橋～」に基づき、各事業部門におきまして、経営諸施策に鋭意取り組みました。

<当第2四半期連結累計期間の業績>

商業施設事業における前年同期の臨時的な収入がなくなったことや健康関連および衣料品関連の一部OEM販売先の伸び悩みを主因に、売上高は21億13百万円(前年同期比7.2%減)と減収になったものの、一般管理費の削減効果により、営業利益は2億27百万円(前年同期比14.9%増)と増益になり、さらに前年同期に発生した一過性の営業外費用がなくなったことから経常利益は1億69百万円(前年同期比81.7%増)と増益になりました。これに、前年同期に計上した特別利益・特別損失がともになくなったことや法人税等の負担を考慮した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億30百万円(前年同期比105.7%増)と前年同期比ほぼ倍増となりました。

<セグメント別の業績>

(商業施設事業)

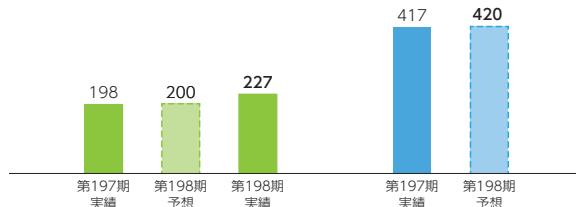
商業施設事業においては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」において、将来的な追加開発に関する予備検討を進展させるとともに、開業20周年イベントを年間を通じて実施することで、施設扱高は順調に推移しているもの

■営業利益

227百万円

前年同期比 14.9%増
中間予想比 13.7%増

■第2四半期累計期間 ■通期 (単位: 百万円)



の、前年同期に計上した臨時的な収入がなくなったことや、20周年企画における一部リニューアル工事費用の臨時支出があった結果、売上高は11億72百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益は4億66百万円(前年同期比9.7%減)となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業においては、伊藤超短波株式会社との資本業務提携を活かし健康関連分野へのシフトを一段と強化させましたが、一部OEM先の販売が伸び悩んだことや夏場の需要減退が響き、さらに、原材料費の高止まりもあった結果、売上高は3億49百万円(前年同期比12.4%減)、営業損失は25百万円(前年同期は営業損失20百万円)となりました。

(繊維・アパレル事業)

繊維・アパレル事業においては、市況が軟調な布帛関連の一部OEM取引先での販売が伸び悩む一方で採算の改善があった結果、売上高は5億92百万円(前年同期比12.4%減)、営業損失は2百万円(前年同期は営業損失5百万円)となりました。

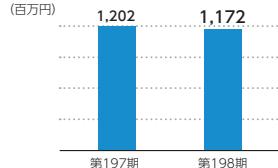
<最後に>

当第2四半期におきましては、事業基盤を強化する観点から、8月に東証一部上場のファーストブラザーズ株式会社との資本業務提携を実現しました。また、株式の取引単位引き下げに伴い株主優待制度の拡充を実施するなど新しい取り組みも積極的に進めております。今後とも、企業価値の向上に真摯に取り組む、経営理念である「進取の精神」と「自利利他の心」に基づき、新たな明日を創ってまいります所存でございます。株主の皆様におかれましては何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

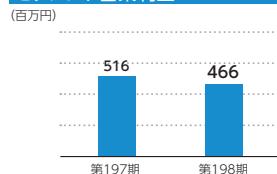
事業セグメント別の業績 (グラフは第2四半期累計期間の実績)

商業施設事業

売上高

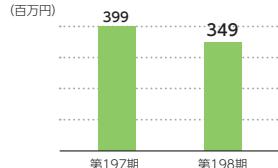


セグメント営業利益



ヘルスケア事業

売上高

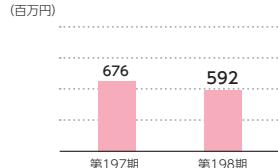


セグメント営業利益



繊維・アパレル事業

売上高



セグメント営業利益

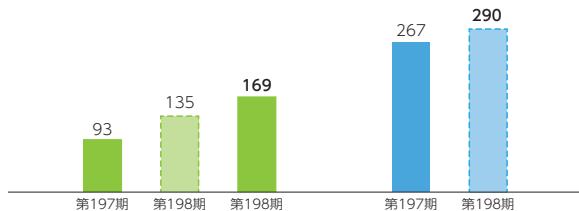


■ 経常利益

169百万円

前年同期比 81.7%増
中間予想比 25.3%増

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期 (単位: 百万円)



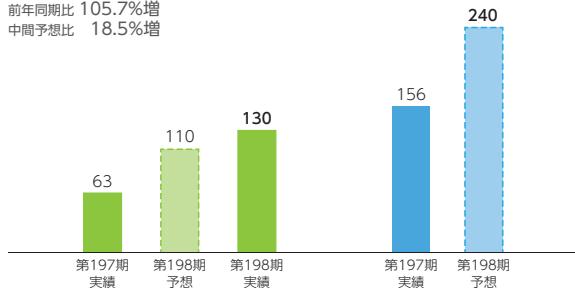
(注) 上記予想は発表日現在で入手可能な資料に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

■ 親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益

130百万円

前年同期比 105.7%増
中間予想比 18.5%増

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期 (単位: 百万円)





代表取締役社長 山内一裕

daitobo

スペシャル・

「発想力を活かし

代表取締役社長

山内一裕

今年度に入り、中学生プロ棋士で連勝記録を更新した藤井聡太四段や“ひふみん”の愛称で人気のある加藤一二三九段、さらに12月には羽生善治竜王が史上初の永世七冠の資格を得るなど将棋が注目



室谷

将棋は大局観・構想力などと並んで「序盤の発想力」が大切だと言われます。また、棋士は盤上の81マスに「無限の可能性」を追求するとも言われます。ダイトウボウグループのシンボルマークのテーマ「発想力を活かし無限大の可能性へ」は、こうした将棋の考えにも通じるものを感じますが、どのような意味を込めて作られたのですか？



山内

daitobo (シンボルマーク) の末尾の「bo」を無限大のインフィニティをモチーフとしてロゴ化し、また、「i」の文字を人に見立てて、頂点の●は柔軟な発想力のアタマをイメージしました。これにより、当社グループが「発想とヒト」を武器に持続的な企業価値の向上を進め、人々の豊かな生活に寄与するとの想いを込めました。おっしゃる通り、「発想力」と「無限大の可能性」というキーワードは、将棋に通じるものがあると思っています。

室谷

ダイトウボウグループの歴史は創立122年目を迎え、事業会社として相当の歴史を感じます。この歴史の重みについてどう感じますか？

山内

日本の将棋の歴史約1,000年には遠く及びませんが、株主様はじめ顧客や取引先の皆様への感謝の気持ちと、曲がりなりにも今日まで歴史を紡ぎあげて来たという自負の気持ちは、社員一同が共有しているところです。

室谷

ところで、現在進めている「中期経営計画 Bridge to the Future ~未来への架け橋~」は今年度が最終年度ということですが、来年度以降に向けた取り組みについてお聞かせください。

山内

現在、次期中期経営計画の策定作業中ですので、具体的なこととお話しできる段階ではありませんが、商業施設事業において追加開発の予備検討を進めています。また、ヘルスケア事業においては資本業務提携先との連携を強化するとともにM&Aなども検討対象にすることで、事業の柱の一つに育てたいと考えています。

無限大の可能性へ」

女流棋士

室谷由紀

される中、今回は、日本将棋連盟の室谷女流二段にお越し頂き、当社グループの経営に関するテーマを幅広く山内社長にインタビューして頂きました。

次期中期経営計画では、復配も視野に、当社グループの成長を確実なものとしてお示ししたいと思っています。

室谷 最後になりますが、将棋と会社経営の共通点のようなものがあればお聞かせください。

山内 無から有を生む「発想力」、そこからの「無限大の可能性」はビジネスそのものに通じると考えています。また、将棋のもうひとつの重要な要素である「大局観」は、経営にとっても重要な要素です。これからAIの進化とともに、世の中の仕組みが大きく変わっていく中で、人間の可能性をさらに広げるべく大局観を持って先を読んだ経営を心掛けたいと思っています。また、社内の行動指針に掲げている「3手先を読む」は将棋用語であり、将棋用語は実際にビジネスの現場で数多く活用されています。当社としては、今後、社内研修の一環としても将棋を取り入れることで、人材育成に役立てたいと考えています。

室谷 ありがとうございました。山内社長のお話を伺い、歴史あるダイトウボウグループのさらなる

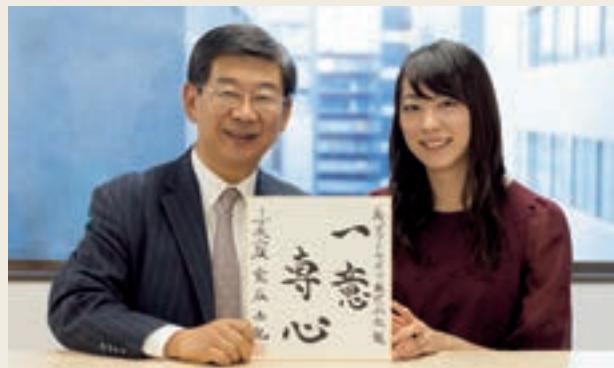


室谷由紀女流二段

日本将棋連盟所属の女流棋士。14歳で関西女流アマ名人戦優勝。2009年女流プロ入り後、2016年マイナビ女子オープンでタイトル初挑戦。大阪府出身。2017年10月大阪府狭山市観光大使に就任。NHK将棋番組などテレビ・イベント出演多数。

可能性を感じました。将棋が、ダイトウボウグループの人材育成に役立つのであれば、とても嬉しいことです。今後も、「発想力を活かし無限大の可能性へ」向かって歩を進めていかれることを期待しています。

山内 私も、将棋には以前より興味があり、大変有意義なお話を聞かせて頂けたと喜んでます。これからも応援をよろしくお願いします。



決算レビュー

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	2,940,496	3,022,133
固定資産	16,013,067	16,071,652
有形固定資産	15,566,615	15,701,243
無形固定資産	7,632	9,417
投資その他の資産	438,819	360,992
資産合計	18,953,564	19,093,785
(負債の部)		
流動負債	1,456,057	1,523,259
固定負債	13,023,514	13,240,938
負債合計	14,479,571	14,764,197
(純資産の部)		
株主資本	△531,610	△661,897
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,527,780	△2,658,134
自己株式	△7,206	△7,138
その他の包括利益累計額	5,003,794	4,990,863
新株予約権	1,809	622
純資産合計	4,473,992	4,329,588
負債純資産合計	18,953,564	19,093,785

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当第2四半期 (累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期 (累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	2,113,985	2,278,141
売上原価	1,494,507	1,621,289
売上総利益	619,478	656,852
販売費及び一般管理費	391,988	458,840
営業利益	227,489	198,011
営業外収益	3,813	54,054
営業外費用	62,089	158,936
経常利益	169,214	93,129
特別利益	—	109,743
特別損失	—	107,257
税金等調整前四半期純利益	169,214	95,615
法人税、住民税及び事業税	40,068	30,040
法人税等調整額	△1,208	2,206
四半期純利益	130,354	63,368
親会社株主に帰属する四半期純利益	130,354	63,368

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当第2四半期 (累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期 (累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	177,917	58,233
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,334	359,260
財務活動によるキャッシュ・フロー	△183,447	294,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	△551	△1,296
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,252	710,232
現金及び現金同等物の期首残高	1,668,446	687,297
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,671,698	1,397,529

ビジネスフィールド

商業施設事業

心地よい生活文化を提案し続けるダイトウボウの商業施設。「お客様に喜ばれる空間づくり」を基本ビジョンに、豊かな生活空間を提供してまいります。

- ショッピングモール



ヘルスケア事業

高齢化の進展と健康意識の高まりに応じて、当社独自技術の商品を活かして、お客様の健康で快適な生活をサポートします。当社グループの国内生産拠点の高い技術力が強みです。

- 健康関連素材
- 健康食品
- 家庭用医療機器
- 一般寝装品



繊維・アパレル事業

ダイトウボウは「お客様に喜ばれるモノづくり」を基本ビジョンとして、アパレルファッションからユニフォームまで幅広くお客様のニーズに応じてまいります。

- 官・民ユニフォーム
- 生産管理型OEM
- ニット企画



会社概要 / 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

会社概要

創 立 明治29年2月27日
 資 本 金 1,500,000,000円
 事 業 所 東京都中央区日本橋本町1丁目6番1号 (丸柏タマビル)
 本 社 ☎ 03 (6262) 6565
 名古屋営業所 愛知県一宮市本町4丁目17番9号 (明治産業第2ビル)
 ☎ 0586 (23) 4811
 大阪営業所 大阪市中央区南久宝寺町2丁目3番6号
 ☎ 06 (6262) 8322
 グループ会社 大東紡エステート株式会社 (静岡県)
 新潟大東紡株式会社 (新潟県)
 上海大東紡織貿易有限公司 (中国)

● 所有者別株式分布 (持株比率)



株式の状況

発行可能株式総数 96,000,000株
 発行済株式の総数 30,000,000株
 株主総数 7,775名

● 大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
ファーストブラザーズ株式会社	682	2.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	574	1.91
株式会社デベロッパース三信	550	1.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	541	1.80
株式会社シード	501	1.67
小泉 芳夫	456	1.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	400	1.33
株式会社SBI証券	343	1.14
日本証券金融株式会社	330	1.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	297	0.99

(注) 持株比率は自己株式 (68,598株) を控除して計算しております。

■ 役員 の 状 況

代表取締役社長	山	内	一	裕
代表取締役副社長	野	村	利	泰
取締役執行役員	三	枝	章	吾
社外取締役	澤	田	康	伸
取締役監査等委員	加	久	間	雄
社外取締役監査等委員	飯	沼	春	樹
社外取締役監査等委員	鏡		高	志
社外取締役監査等委員	奥	村	秀	策

(注) 1. 澤田康伸氏、飯沼春樹氏、鏡高志氏および奥村秀策氏は社外取締役(独立役員)であります。
2. 監査等委員4名をメンバーとする監査等委員会を設置しております。



澤田康伸 鏡高志 三枝章吾 飯沼春樹 奥村秀策
野村利泰 山内一裕 加久間 雄二

平成29年8月10日開催の取締役会において、単元株式数の変更に伴う株主優待制度の変更を決議いたしました。

1 対象となる株主様

毎年3月末現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式100株以上を継続して6か月以上保有されている株主様を対象とします。

2 株主優待の内容

継続保有期間	保有株式数		
	100株以上 1,000株未満	1,000株以上 2,000株未満	2,000株以上
6か月以上 1年未満	当社ECサイト 取扱商品の 優待割引券 1回分	①2,000円相当の クオカード ②当社ECサイト 取扱商品の優待 割引券1回分	①4,000円相当の クオカード ②当社ECサイト 取扱商品の優待 割引券1回分
1年以上	当社ECサイト 取扱商品の 優待割引券 2回分	①3,000円相当の クオカード ②当社ECサイト 取扱商品の優待 割引券2回分	①5,000円相当の クオカード ②当社ECサイト 取扱商品の優待 割引券2回分

開始時期および方法

平成30年3月末日現在の株主名簿に記載または記録された株主様を対象とする株主優待から実施いたします。

なお、発送時期は定時株主総会終了後を予定しております。

IRインフォメーション

当社ホームページでは決算短信や有価証券報告書をはじめ、最新の財務情報・適時開示情報等のIR情報を掲載しております。是非ご覧ください。

<http://www.daitobo.co.jp/ir/>



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金配当基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(特別口座管理機関) 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号

(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載して行う。

ダイトウボウ株式会社

<http://www.daitobo.co.jp/>

本冊子に関するお問合せ先 経営管理本部 TEL : 03-6262-6565

